

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ライフサポート教室わくサポ		
○保護者評価実施期間	令和8年1月16日		～ 令和8年2月16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35人	(回答者数) 24人
○従業者評価実施期間	令和8年2月1日		～ 令和8年2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お仕事体験：将来を見据えた「お仕事体験」プログラムを行い、将来の就労や社会的自立を意識した「お仕事体験」を実施。疑似的な就労体験を通じて、社会のルールやマナー、働くことの意義を学ぶ機会を提供している。	体験プログラムを通して、自分の向き・不向きを知ることができるよう支援している。また、活動後には報告書を作成することで、活動を通してのフィードバックを行い、「何ができたか」「どう感じたか」「次はどうしたいか」を言語化する取り組みを実施。	お仕事体験で得た自己理解を、実際の進学や就労選択に活かせるよう取り組む。
2	パソコン練習：将来の就労や学習に必要な基本的なパソコンスキルの習得を支援。タイピング練習から文書作成まで、一人ひとりのレベルに応じた練習環境を提供している。	自分のペースで取り組めるパソコン練習を通じて、「できた」という成功体験を積み重ねることで学習意欲の向上につなげている。	タイピング検定等への挑戦機会を設定し、客観的な評価を通じて自己効力感を高められるよう取り組む。
3	生活するための力を育てる活動として将来の自立生活を見据え、日常生活に必要な実践的スキルの習得する練習を行う。	個々の特性に合った個別プログラムを設定し、料理や掃除、お金の管理など日常生活に必要な力やソーシャルスキルを育むよう支援している。	買い物体験や公共交通機関の利用など、事業所外での実践機会を増やし、応用力を高める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別支援計画への保護者ニーズ反映不足 保護者からの進路・受験に関する具体的な要望に対し、個別支援計画への反映やプログラム提供が十分に対応できていないケースがあった。	お仕事体験・パソコン練習・生活スキルの各プログラムは提供していたが、これらと進路選択を結びつける支援体系が不十分であったため。	既存のプログラム提供以外にも進路情報の収集や活動の中での練習も取り入れる。 保護者ニーズを把握し計画への反映を図る。
2			
3			